

2008年10月16日

博報堂DYメディアパートナーズ

対応型テレビ所有、一気に5割を突破。

～博報堂DYメディアパートナーズ 第9回「地上デジタル放送浸透度調査」～

株式会社博報堂DYメディアパートナーズ(本社:東京都港区、社長:佐藤孝、以下博報堂DYメディアパートナーズ)は、地上デジタル放送開始前の2003年7月より、通算9回目となる地上デジタル放送の浸透度に関する調査を行いました。今回の報告書は、全9回の調査のうち2003年から2008年までの各7月時点の調査結果6回分を時系列でまとめたものです。本調査は、視聴者における地上デジタル放送への理解や特性認知状況の推移を時系列的に調査し、激変するメディア環境の変化を把握することを目的としています。

地上デジタル放送対応テレビの所有は、本調査開始時点の2003年7月より順調に進んでおり、本年度は52.3%と、一気に5割を突破しました。対前年度からの増加率をみると、昨年度が11.3ポイント、本年が17ポイントと10%以上の所有の拡大が続いており、ここにきて一段と地上デジタル放送対応テレビの所有に加速がついてきています。

地上デジタル放送対応テレビの内訳を見ると、所有者52.3%のうち9割近くが地上デジタル放送を直接受像できる内蔵型でした。また、地上デジタル放送の視聴状況をたずねた質問では、「地上デジタル放送をすでに視ている」と答えた人は、前年から14ポイントと大幅にアップし、43.8%と半数近くに達しています。地上デジタル放送の視聴も3年連続して10%以上の視聴拡大となっています。

過去5年間にわたって地上デジタル放送の言葉の認知や特性認知状況の推移をみてきましたが、地上デジタル放送の認知についてはほぼ全員が認知している状況で、「地上デジタル放送」という言葉は完全に普及・定着しているといえます。また、「アナログ放送は2011年7月24日に完全終了」、「従来受像機では視聴できない」の特性認知についてもほぼ全員が認知しており、特性認知も完全に定着していることが窺えます。

また、ワンセグ放送対応携帯電話の所有は、2006年からのこの3年間で10倍以上増加し、36.5%と4割近くまで伸びています。ワンセグ携帯電話所有者の7割弱が、携帯電話でワンセグ放送を見ている(「よく見る+時々見る」合計)ことも分かりました。

博報堂DYメディアパートナーズは、総合メディア事業会社として、今後も地上デジタル放送の浸透度に関する定点調査を行い、メディア環境と生活者の移り変わりについて調査・研究していきます。

本件に関するお問い合わせ 博報堂DYメディアパートナーズ

広報グループ

メディア・コンテンツマーケティング局

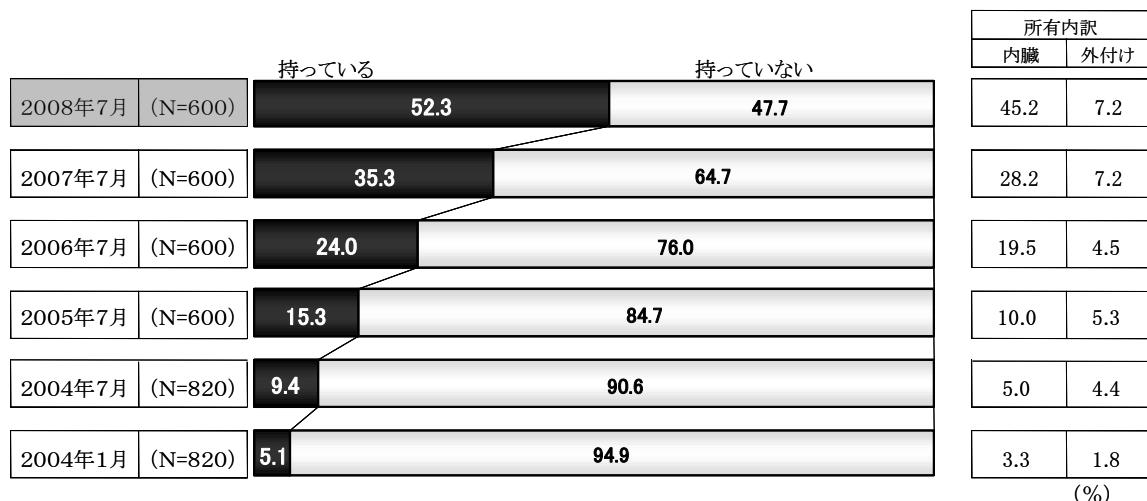
加藤・舟橋 03-6441-9347

大村・高橋 03-6441-9773

主な調査結果

■ 「地上デジタル放送対応テレビの所有率」、5割を突破

- 地上デジタル放送対応テレビの所有率は、今回の調査では52.3%と一気に5割を突破しました。対前年度からの増加率をみると、2005年が5.9ポイント、2006年が8.7ポイント、昨年度が11.3ポイントそして本年が17ポイントと、ここにきて一段と地上デジタル放送対応テレビの所有に加速がついてきています。
- また、地上デジタル放送対応テレビの内訳を見てみると、所有者52.3%のうち45.2%と、9割近くが地上デジタル放送受像ができる内臓型と答えています。



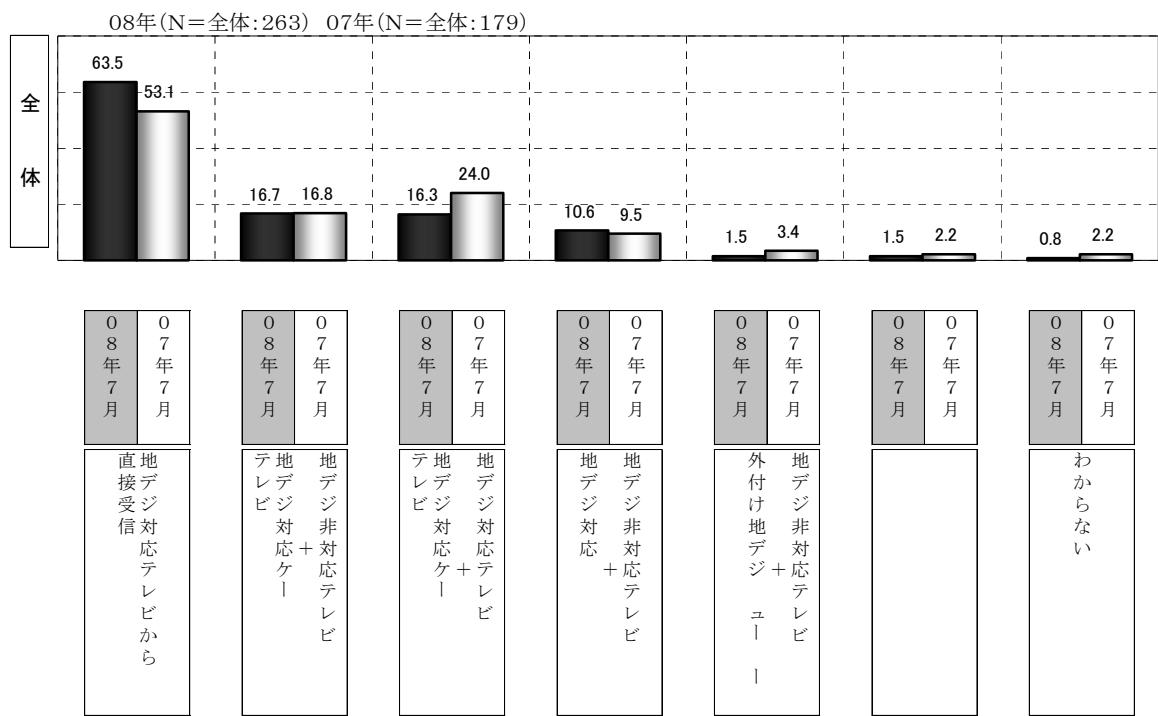
注)地上デジタル放送は2003年12月に首都圏、京阪神、名古屋の3エリアで先行して放送が開始された。そのためこの項目については2003年7月ではなく、放送開始直後の2004年1月の結果を時系列比較のデータとして採用した。

■ 43.8%が「地上デジタル放送をすでに視聴」

- 地上デジタル放送の視聴状況についてたずねた質問では、「すでに視ている」と答えた回答者は、昨年から14ポイントと大幅にアップし、43.8%と半数近くに達しています。2005年調査以降毎年10ポイント以上の増加を示し、地上デジタル放送の視聴が急速に高まっています。

■ 「地上デジタル対応テレビから直接受信」が全体の6割以上

- 地上デジタル放送を既に視ている人がどのように方法で地上デジタル放送を受像しているかをたずねた質問では、「地上デジタル(以下地デジと略記)対応テレビから直接受信」が全体で63.5%と6割以上を占めています。次いで「地デジ非対応テレビ+地デジ対応ケーブルテレビ用機器経由」(16.7%)、「地デジ対応テレビ+地デジ対応ケーブルテレビ経由」(16.3%)、「地デジ非対応テレビ+地デジ対応録画機経由」(10.6%)、「地デジ非対応テレビ+外付け地デジチューナー経由」(1.5%)と続いています。
- 受像方法としては「地デジ対応テレビ」が「地デジ非対応テレビ」を大きく上回っています。

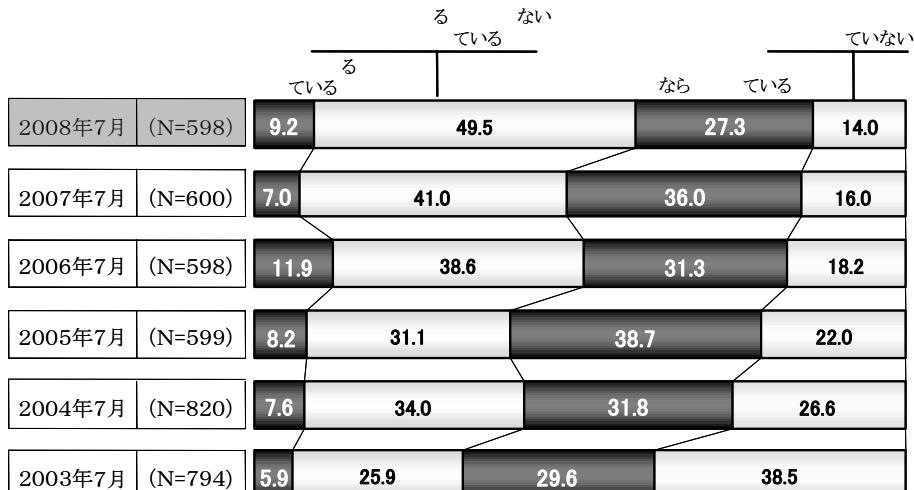


■ 「地上デジタル放送の認知」は100%

- 「地上デジタル放送」という言葉を「聞いたことがある」という確信者は、昨年同様99.3%に達し、「聞いたことがある気がする」の0.3%を含めるとほぼ全員が「地上デジタル放送」という言葉を認知しているという状況です。
- 「地上デジタル放送」という言葉を「聞いたことがある」という確信者は、第1回調査の2003年時点は84.9%と8割台でしたが、2004年以降は9割台半ば以上の高率で推移し、「地上デジタル放送」という言葉は完全に普及・定着しているといえます。

■ 「地上デジタル放送の理解」は約9割

- 「地上デジタル放送」について、「人に説明できるほど理解」は昨年に比べて2.2ポイント、「自分では理解している」は8.5ポイントと大幅アップとなりました。「少しだけ理解している」も含めた理解率をみると、2005年が78%、2006年が81.8%、昨年度が84%、そして本年が86%と、上昇傾向が続いている。

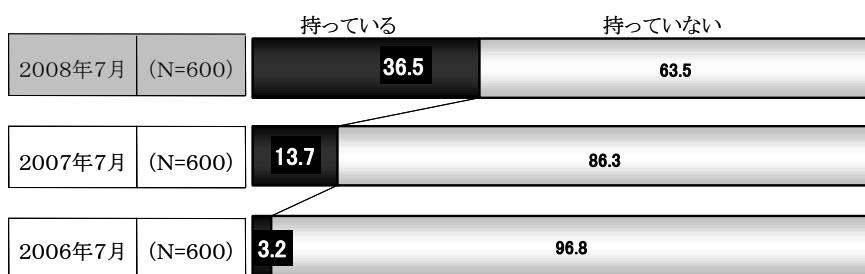


■ 「2011年7月24日アナログ停波」「従来受像機では視聴できない」はほぼ100%認知

- 地上デジタル放送の特性認知をみると、「アナログ放送は2011年7月24日に完全終了」については昨年同様97%、「従来受像機では視聴できない」については昨年から3%アップの98%と、ほぼ全員が認知しており、地上デジタル放送の環境特性については周知徹底されていることがうかがえます。

■ 1／3以上がワンセグ放送対応携帯電話を所有

- ワンセグ放送対応携帯電話の所有率は、昨年から約3倍増という飛躍的増大を見せ、36.5%と4割近くまで伸びています。2006年(3.2%)からのこの3年間で、10倍以上増加しています。



■ ワンセグ携帯電話所有者の7割が携帯電話でワンセグを視聴

- ワンセグ携帯電話所有者のワンセグ放送視聴状況をみると、「よく見る+時々見る」の合計で、7割弱が携帯電話でワンセグ放送を見ていることが分かりました。
- 「よく見る」は全体で10.5%、「時々見る」は58.0%、「見ていない」は31.5%となっています。

調査設計

■調査地域	首都圏・京阪神の2地区
■調査時期	第1回:2003年7月15日～18日 第4回:2004年7月 6日～12日 第6回:2005年7月21日～25日 第7回:2006年7月19日～21日 第8回:2007年7月27日～31日 第9回:2008年7月25日～29日
■調査対象者	20歳～59歳の男女
■調査対象者数	第1回:計820人 第4回:計820人 第6回:計600人 第7回:計600人 第8回:計600人 第9回:計600人
■調査手法	インターネット調査

今回の報告書は全9回の調査のうち2003年から2008年までの各7月時点の調査結果6回分を時系列としてまとめたものです。

